

令和7年度 都立小川高等学校 学校経営報告

今年度の取組目標と方策

下線部＝全教員による必須取組事項 ★重点を置いて実施した項目

今年度の教育活動の目標	重点目標への取組と自己評価	次年度以降の課題と対応策 (★重点課題)
<p>1 学習指導</p> <p>【目標1】 組織的な補習・講習の充実により、基礎学力の定着、伸長を行う。</p> <p>【目標2】分析会・定期考査・課題テスト・模試結果等を分析し、授業内容と方法の検証と改善を行い授業力向上に資する。</p>	<p>方策1★ 生徒の学力分析から教科会で補習、講習の講座を検討し、講座の設定を5教科について実施できた。</p> <p>方策2 教員間の授業見学を年3回の目標であった。1回見学は95%できていたが、3回以上見学できた教員は14名であった。</p> <p>方策3 初任者、2,3年次の教員が特に、教師道場、指導教諭の授業見学、教員研修(オンライン含む)を積極的に活用し、授業力の向上が見られた。</p>	<p>★学力分析の継続と活用 定期考査の分析から、科目ごとに弱点を見出し、課題の提出や、授業計画を共通理解し生徒の学力補填や向上を目指す。</p> <p>○授業力向上に資するアプローチ 本校の若手研修の授業見学はもとより、指導教諭のオンライン授業や実際の訪問など、教員自身の研鑽を促す工夫。</p>
<p>【目標3】 継続的な課題配信等、自主学習、家庭学習習慣の定着を図るための方法を実践する。</p>	<p>方策4★ 授業の継続的な課題について、国数英3教科においては、小テストの実施やスタディサプリの配信による継続的な自主学習を促せるようになった。</p> <p>方策5 自習スペースを拡張、18時半までの自主学習の居残り延長、図書館の放課後自習活用を組織的に運営し、特に上級生の継続活用が増加した。</p>	<p>★朝の始業前時間の活用について、昨年度、朝の打ち合わせ時間を無くし、時間を捻出したので、自学習につながるための朝学習等、学年で工夫、検討、実践する。さらに遅刻防止にもつなげる。</p> <p>○自習スペースの拡充と活用についての周知、チュータ等の配置を強化する。</p>
<p>【目標4】 教科会を中心とした「教科マネジメント」の構築を行い、学力の一層の定着を図る。観点別評価の適切な実施とPDCA サイクルによる指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>方策6★ ベネッセ、河合塾の分析会、ケース会議、定期考査ごとの分析を実施、教科会で共有し、授業方法や課題計画にフィードバックすることができた。</p> <p>方策7 観点別評価のブラッシュアップを全教科で行い、様々な評価材料で評価に反映することができている。しかし、一部の教科では検討が必要である。</p> <p>方策8 授業内での発表等、アウトプットする場を積極的に設ける姿勢が見られ、増加した。特に一人一台端末による簡易プレゼン、発表などを適宜導入する教科も増加した。</p>	<p>★分析会の工夫として、業者の分析、定期考査の分析、から見える課題を教科ごとに共有し、生徒の弱点克服につなげるルーティンの確立を行う。</p> <p>○教育課程改編に向けての、教科会→教科主任会での課題共有を行う。</p> <p>○観点別評価は毎年見直しを行い、授業改善に資することが目的のため、評価材料を増やして適正な評価につなげる。</p>

<p>【目標5】 資格・検定試験受験の機会を授業・学習の一環として確保し学力向上の取組につなげる。</p>	<p>方策9★ 学力サポート委員会で前年度の課題を整理し、特に講習、補習の検討、分析会の充実、検定試験の充実を図ることができた。</p> <p>方策10★ 英検全員受検の実施は2年継続実施。その他、準会場として2回英検を実施し、1回につき70名以上受験している。進路指導等により、英検受検意識の醸成が図れている。学習習慣に更につなげたい。</p> <p>方策11 英語授業で授業と関連させて英検対策を取り入れたり、課題配信を行えている。</p>	<p>★学習サポート委員会が、学校の学力向上等の中心的な取組(提案)の機関であることの教員への理解と、「進学指導研究校」として学習サポート委員会と進路部、学年の連携強化を図る。</p> <p>○検定試験の推進。英検、漢検に続き、数検の取組を新たに進め、進路での活用と日常の学習習慣の定着につなげる。</p>
<p>【目標6】 図書館環境を整え、学習活動、探究、読書活動など様々なニーズに対応した推進の方策を講じる。</p>	<p>方策12 生徒図書委員の活用は従来通り行えた。読書離れが進んでおり、数値が若干減っている</p> <p>方策13 国語の授業で全員ビブリオバトルを実施し、都大会へ出場させた。国語科の授業ではで図書館活用を促進できている。</p>	<p>○司書教諭、学校図書館専門員の連携と業務分担整理</p> <p>○読書離れ、活字離れに対する方策を検討する。</p> <p>○ビブリオバトルの国語科での継続実施</p>
<p>【目標7】 教員の知見とデジタルの力を最適に組み合わせた授業方法、学習方法を工夫し、学習を調整して学ぶことができるようにする。</p>	<p>方策14★ 思考力・表現力等を高める学習活動は、グループワークなどを取り入れて意見交換させたり課題を解決させる授業が昨年より増えている。実技教科でも行えている。一人1台端末の授業での活用は7割の教員は取り入れられている。</p>	<p>★生徒端末の有効な活用場面、方法の研鑽の機会の充実。AIの授業での活用。</p> <p>○端末の有効な活用方法の工夫。生徒のアウトプットの機会の充実。</p>
<p>【目標8】 「総合的な探究の時間」の組織的な活動を理解し、生徒が探究的なものの見方、考え方を身に付けられるよう指導助言する。</p>	<p>方策15★ 「総合的な探究の時間」実施計画は、本校独自のものができている。探究委員会として進路部担当と学年が毎週会議をもち、組織的に実施できた。</p> <p>方策16 地域等に関わる体験活動は、成瀬地域のボランティアはじめ、ミャンマー地震の募金活動を企画、実施できた。大学教授の探究発表の助言をはじめ外部人材を計画の中に効果的に活用でき始めた。同窓会の協力による職業理解も定着できた。</p>	<p>★本校の「総合探究」が人が変わっても内容の担保ができるよう、大学等の連携先、同窓会、小川サポーターズ、カルパディエムとの連携の定着を図る。</p> <p>○「小川人材バンク」の本格始動を行う。</p>

<p>【目標 9】 グローバル教育として、主体的に学び続ける態度と総合的な英語力の育成、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成、多文化共生の精神の涵養と協働する力の育成等を図る。</p>	<p>方策17★ 「国際交流推進プロジェクト」が機能し、オンライン交流2回、インドネシア教員団の受け入れ、グローバルフレンドシップによるカナダ高校生の全校での受け入れなど交流機会が格段に増え、生徒の海外への興味、関心が高まっている。ヨルダンの海外派遣は初であったが、事前、事後学習をしっかりと行い有意義な研修となった。また、派遣についての発表を行った。</p>	<p>★姉妹校締結の実現 ★今年度の取組を土台とした、本校の国際理解教育の柱の策定とそれに伴う、活動の柱の検討と持続できる組織体制。 ○研修旅行等の検討 ○都のグローバル関係の施策の有効活用</p>
<p>2 生活指導 【目標 10】 規律正しい基本的生活習慣の確立、規範意識の向上のためにルールやマナー等について教職員全員で共通理解をし、指導する。</p>	<p>方策18 遅刻者についてクラス月平均1人としたが、継続遅刻者の指導、解消がうまくいかずに平均2名となっている。連絡が取れないなど、保護者との連携がうまくいかない家庭も多い。</p> <p>方策19 ルールやマナーについて、生徒会と教員の意見交換会、アンケートの実施を通じて現状把握と課題が見いだせた。</p> <p>方策20★ 服装指導の統一見解は、年度当初整理して、教職員全員での声掛けや、機会を捉えた一斉指導をお願いした。また、生徒に関わる苦情、自転車事故、盗難防止等は、生徒保健部から一斉に放送で呼びかけることで意識付けを徹底した。</p>	<p>○遅刻者の減少のための始業前の時間の活用の工夫</p> <p>○生徒主体のルール・マナーの徹底の取組の推進</p> <p>○全教員が統一見解で行える服装指導、声かけについての工夫と、朝の立ち番の在り方。</p> <p>○地域の小川高校生としての所属意識を促す指導 安全面の指導(交通面・痴漢等の被害、加害面)</p>
<p>【目標 11】 自転車通学ヘルメット着用率の向上に向け具体策を工夫する。</p> <p>【目標 12】 命の安全、犯罪の加害者、被害者にならないよう、情報モラルについて、学校教育の多様な場面で考えさせる取組を行う。</p>	<p>方策21 自転車登校時のヘルメット着用率を向上させるため、生徒にヘルメット着用についてアンケートを実施、回答内容に基づいて指導や啓発方法を様々取り組んだ。男子は後半、着用率が上昇している。</p> <p>方策22★ SNSの危険性と適切な使用についての講話実施。SNSの問題があった際の早期対応をいじめ対策委員会、生徒支援委員会で周知し対応を早急に実施した。場合に応じて警察とも連携した。</p> <p>方策23 小川高校 SNS ルールを生徒視点で検討させ見直しまではいけなかったが、生徒会と生徒保健部での意見交換や提案の機会を作ることができた。</p>	<p>○自転車登校50%の生徒の命を守ることの重要性を生徒・保護者に理解させる取組と具体策を検討する。</p> <p>★SNS の適切な使用(法的なことも含め)について、できるだけ年度当初に生徒に理解を促す機会をつくる。 本校の委員会機能(いじめ対策委員会、生徒支援委員会)を活用し早期対応を図る。そのための教員の周知や流れを共有する。</p>

<p>【目標13】 生徒の問題行動に関して早期発見と早期対応に努め、生徒が安心して学校生活を送れる環境を維持する。生徒の生活上の課題等を早期発見し対応する。</p>	<p>方策24 SNSに関するトラブルが多くなっている。内容に応じて、いじめの疑いがある場合には、すぐに「いじめ対策委員会」を招集し、組織的に早期対応と解決策を講じることができた。</p> <p>方策25★ 「生徒支援委員会」を月1回、年間10回実施し、気になる生徒の対応を集約し、「SC等の学校対応」「医療等外部との連携」「見守り」と分け、具体的な対応ができた。 SCによるミニ講習会を、職員会議の冒頭に組み込む取り組みを行い始めた。</p> <p>方策26 SC2名を中心としながら、相談しYSW、エリアネットワーク等の人材を活用しながら具体的継続的な対応が叶った。</p>	<p>○SNSトラブル防止のための、人間関係構築の講演の継続</p> <p>★いじめ対策委員会、生徒支援委員会の活用を全教職員に定着させることによる早期発見と対応。</p> <p>○生徒の課題に対する対応意識の醸成(SCによる定期的な研修の継続等)</p> <p>○外部人材の活用までの手順についてまとめ、周知する。</p>
<p>【目標14】 清掃・美化について、小川高校の環境美化の意識を高める。</p>	<p>方策27 美化委員会の活動が定着している。美化委員会のアイデアを活かした継続的な清掃活動、生徒による美化の推進までは進めることができなかった。</p>	<p>○ロッカーなど丁寧に扱う習慣をつける。美化委員を活用して、教室環境の維持に努める。(ものが散乱するなど美化の意識が低いクラスが見受けられる)</p>
<p>【目標15】 防災教育の推進を行い、東京直下型地震に対する意識と知識を高めるとともに災害に関する「共助」の姿勢を身につける。</p>	<p>方策28 防災教員推進委員会を3回実施、地域の防災訓練の理解や、年4回実施する避難訓練の在り方を検討、今回は、地域と連携した部分の非難の確認と、防災教育推進委員の体験等を話し、共助の意識付けを行った。</p>	<p>○防災推進委員会組織の活性化 前例踏襲ではなく、実際の災害を想定した実のある避難訓練の実施方法の検討。教員側の災害時の体制の周知</p>
<p>3 特別活動・部活動 【目標16】 生徒会を中心にした主体的な取組を支援し、学校行事を充実させる。</p>	<p>方策29 生徒会が自立的になっており、生徒の組織のトップである自覚が芽生え、提案なども行えるようになった。特に募集対策では、生徒自らが運営する説明会を工夫したりし、好評であった。</p> <p>方策30 委員会の機能について、図書委員会、保健委員会が動いている状況が見られる。行事の特別委員会は自発的にできている。</p>	<p>○生徒会組織の在り方を生徒に理解させるとともに、自主的、自発的に自分たちの高校をより良くする改善策を自ら考え行動できる組織とする。</p> <p>○生徒の自主性を促し、学校の一員として機能している実感の持てる、委員会活動の工夫</p>
<p>【目標17】 日本の伝統文化を理解し、発信する取り組みを積極的に行う。</p>	<p>方策31 国際交流クラブの部員が、JETとともに書道などの伝統文化活動に取り組んでいる。カナダの生徒に茶道部や剣道部が伝統文化推進として文化を伝承した。</p>	<p>○海外交流時の日本の伝統文化の紹介についての工夫</p>

<p>【目標18】 部活動ガイドラインに沿って活動を行う。また、部活動に所属し、学習以外のことに挑戦し継続力を付け、学習と部活動が相乗効果となるように、メリハリのある指導を行う。</p>	<p>方策32 部活動ガイドラインは、しっかり守って活動できており、熱中症対策もしっかり講じて実施できた。そのため、大きな事故なく活動できた。</p>	<p>○部活動ガイドラインの周知徹底。熱中症などの安全対策の強化。 ○継続と目標意識を持たせる部活動運営。</p>
<p>【目標19】 部活動地域移行を視野に入れ、中学生との部活動交流や連携を図る。また、部活動から地域連携を促進する。</p>	<p>方策33 町田市の中学校の部活動地域移行を踏まえ、小中学校との交流等を行いながら本校の生徒とともに技術を高める取り組みを複数の部で行った。また、硬式野球部など地域行事に積極的に協力した。</p>	<p>○東京都が示す今後の部活動の動向を理解し、特に地域との連携は募集対策に直結するところでもあるので、本校生徒と地域中学生が連携し、生徒を部活動でも育てる視点を大切に協力体制をつくる。</p>
<p>4 健康づくり 【目標20】 生徒が心身ともに健康で安心・安全に学校生活を送れるよう環境を整える。生徒が自主的に健康維持できるように講演会や指導の工夫を行う。</p>	<p>方策34 保健だよりを10回にわたり発行し、季節や行事等、時々課題に対して内容を工夫した。 方策35★ 講演等で「命の安全教育」を推進し、生命の尊重・人権尊重の精神を養った。講演会は、薬物乱用防止1回、性関わる健康課題に係る講演、ワークを3回実施できた。そのうち1つは昨年からの継続で実施した。 外部人材を活用した講話等で、生徒への意識啓発や具体的な健康維持の取り組み方を教示する。</p>	<p>○生徒への健康意識・プレコネクションケアの視点を生徒に持たせる発行物、講演、委員会活動を連携する。 ★「命の安全」は最重要と捉え、日頃からの全教職員による生徒の見守り、生徒支援委員会の機能充実と生徒情報の共有を組織的に機能するよう周知する。 継続している「DV防止・より良い人間関係の構築講座(町田市)」の継続。</p>
<p>【目標21】 授業や体育祭、マラソン大会等の行事、部活動等、教育活動全体で健康に関する知識の醸成や実践力の定着、基礎体力の向上を図る。 【目標21】 授業や体育祭、マラソン大会等の行事、部活動等、教育活動全体で健康に関する知識の醸成や実践力の定着、基礎体力の向上を図る。</p>	<p>方策36 保健や家庭科では、自分事として捉えられるよう、食事・運動・睡眠等、健康に関わる分野を扱う際に視覚的な教材や日常の題材を工夫し実践できるような授業を立案した。 方策37 保健体育の授業で統一して、授業の最初に基礎体力向上の筋力トレーニングや柔軟性を高める運動等を取り入れて行った。マラソン大会に向けては自身の体力を可視化し把握させながら、体力向上に努めさせた。 方策38 体力テストのデジタル化に伴った、データ具体的な到達目標を設定させた取り組みには、至っていない。</p>	<p>○健康課題について、本校の生徒の課題に応じ、取り扱う教科(保健体育・家庭等)は、内容を検討して教科全員が同様の生徒課題に対して当事者意識を持てるような授業を工夫する。 ○青少年の体力低下の問題に対して、「生きる力の醸成」として、現在の取組の継続をし、体力向上に努める。 ○体力テストのデータを活かし、自身の記録から、思考を促す授業を検討し、生涯の健康維持につなげる態度を醸成する。</p>

<p>5 進路指導</p> <p>【目標 22】 生徒の実態や新大学入試制度、共通テスト等に対応した、進路ガイダンスのプログラムを充実させる。</p> <p>【目標 23】 教員の進学指導力と教科指導力を高め、生徒の進路希望を妥協させず実現ができる指導、支援を行う。</p>	<p>方策39★ 大学等、特に産業能率大学との連携による、探究の取組に対する個別の助言やプレゼンの方法について実施でき、生徒の実践力が高まった。段階に応じた進路ガイダンス、進路説明会は計画的に実施できた。</p> <p>方策40 週1回の拡大進路部会により学年進路部との連携を密にし、進路行事の取組を浸透させ実施できた。</p> <p>方策41★ 学習サポート委員会が立案した計画に沿って、模試の年間実施の活用説明や、組織的な分析会、生徒の模試振り返りを実施させ、検討して課題を把握できた。</p>	<p>★産業能率大学のプレゼン講座等の取組、各大学・専門学校による探究発表助言の取組を持続可能にする。</p> <p>○学年と進路部の意見交換と情報共有の活性化。</p> <p>○模試の年間実施の活用説明を年度当初に確実に行う。</p> <p>○組織的な分析会、生徒の模試振り返りの継続実施をし生徒には勉強の方法を、教員には生徒の課題把握に対応する改善や工夫を一層充実させる。</p>
<p>【目標 24】 生徒一人ひとりの学習状況や進路希望状況を踏まえた3年間を見据えた進路面談の充実を図る。</p>	<p>方策42 3年に関しては、ケース会議を設けたり、総合型選抜の研修を実施して、情報提供を行いながら、面接指導に活かしていけるようにした。進路希望を保護者や生徒と共通理解をしながら検討できるようにした。</p> <p>方策43 担任団で面談実施時期と回数を検討し、学年によっては面談シートを共通で活用しながら継続指導を実施できた。1年から3年まで三者面談の実施を位置付けた。特に2年生は比較的取組を進められた。また、意識はして取り組んだものの、3年で保護者と連絡が取れないなどの課題は残った。</p> <p>方策44★ 進路部は、生徒の指導に活かせるよう、総合型選抜はじめ、各受験方法に対する情報提供を十分に行う。保護者会での進路関連の情報提供も行えた。</p>	<p>★外部人材(予備校等)を活用した入試形態による情報提供や指導のポイントをレクチャーする機会を(希望者でも良いので)適宜設けて指導に対応できるようにする。 全教員による進路指導体制を構築し、教員により指導の偏りがないようにする。</p> <p>○若手教員が増えてきていることから、1年から3年まで面接週間指導を、ベクトルを合わせて実施する。手法や段階的なポイントを進路部中心にレクチャーする機会をつくる。</p>
<p>【目標25】 進路に対する意識を喚起させることで「第一志望」の進路実現を支援する。</p>	<p>方策45★ 進路に対する目的意識を高めるため、3年生の「第一希望進路宣言」を行わせたが、趣旨が十分伝わらず、中途半端になってしまった。教員も生徒の第一志望を念頭に、指導や支援を行い進路実現に関わる。</p> <p>方策46 ハローワークや東京仕事センター等と連携した職業体験・しごとセミナー・職業紹介・面接練習および職場訪問等で、就職希望の実現を支援する。</p>	<p>★第一志望宣言は、希望進路実現も大事であるが高い目標設定を置くことで、自身を伸長させることも一つの目的である。したがって担任は意図を生徒に伝えたくて宣言させる。</p>

<p>6 募集・広報活動 【目標26】 外部説明会、学校説明会、学校見学会等の機会を積極的に利用し、参加者を増やすことで、受検生に本校への理解を深めてもらう。</p>	<p>方策47 全員で分担し、学校見学・説明会、体験授業、部活動体験を実施した。特に今年度は生徒を前面に出した募集活動を検討し、生徒会による説明会、学校説明会前の吹奏楽の演奏、受付業務などは生徒主体で行った。「進路 EXPO」の参加も生徒主体で取り組み、生徒会10名が精力的に説明や案内等を行った結果、多くの方に興味をいただいた。</p> <p>方策48★ 生徒主体の説明会は、企画から生徒会に任せて、確認しながら実施した。探究の発表も取り入れ、本校の探究活動を知ってもらう機会となった。生徒の姿から本校の良さや特色を発信できた。</p>	<p>○町田周辺の生徒数の減少や私学助成金の影響を受けている中堅校ゆえに、入学後に小川高校がどのように生徒を育成するか明確に説明できるよう検討する。</p> <p>★生徒主体の説明会は、本校の理解の一助と十分なりえた。今後は更に継続して生徒に検討させた説明会を実施する。</p>
<p>【目標27】 本校に関する情報を的確に・迅速に、かつ興味をもってもらえるよう組織的・計画的に教育活動を発信し、第一志望の受検生を確保する。</p> <p>【目標28】 文化・スポーツ等特別推薦の活用により、本校の活性化や他の生徒の模範となる受検生の確保に尽力する。</p>	<p>方策49 町田市、多摩南部については、塾の個別相談が行われる1月に再度訪問して、本校の理解を後押しした。直前説明会を昨年度から行ったが、30組程度の来校者が参加し、一般受験に向けた広報を推進した。</p> <p>方策50★ 学校の特色、指定校の取組をまとめた資料を全教員に配布して理解を促した。着任者にはパワーポイントで、本校の特色について丁寧に説明した。「情報発信推進委員会」と連携し、ホームページの組織的更新300回目標にした。担当を分けてアップし194回であった。「X」に関しては、日常のありのままの生徒の生活をアップする目的で実施し、HPとのすみ分けをした。結果115回更新できた。</p> <p>方策51 学校説明会で文化・スポーツ等特別推薦の趣旨を説明し各顧問による、体験入部等で、本校で文化スポーツ特別推薦で求める生徒像を説明しながら、マッチングできるよう、生徒の確保に努めた。</p>	<p>○塾からの情報を収集し、傾向をつかみ、どの時期にどのような募集対策を行うか、前例踏襲ではなく、検討して実施していく。</p> <p>★HP の更新延べ回数が東京都から全学校示され、本校は平均値程度(6000弱)であったため、このラインを最低でも維持できるように、情報発信体制、配布物の工夫を行う。Xの有効活用も視野に入れ HP とのすみ分けをしっかりと行う。</p> <p>○文化スポーツ特別推薦で入学する生徒の質の維持、向上を目標に1年間、募集に関する取組も継続する。また、指導者の確保が必要である。</p>
<p>学校経営・組織体制 【目標29】 組織的な学校経営を推進するため、全教職員の情報共有を徹底する。業務の効率化により・ワーク・バランスの推進を図る。</p>	<p>方策52★ 重複しているものや、すでに形骸化している取組、機能しきれていない業務の整理をすることで、より管理しやすく、働きやすい環境をつくり出せるよう働きかけ、データ化が特に進んだ。</p>	<p>★端末使用の会議でデータ保存を定着し、紙媒体の資料を減少させ、個人情報紛失や予算の削減につながる。</p> <p>○担当の分担を行い、属人的な仕事による過重負担を避ける。</p>

<p>【目標30】 体罰、暴言、セクシャルハラスメントをはじめとした各種ハラスメントがない職場を目指し、教員間のコミュニケーションを円滑なものにする。</p>	<p>方策53 サービス防止研修による、各種ハラスメントの理解と、セルフチェックを行った。教員間の不適切な言動や対応は、適時話をしながら防止を図るように取り組んだ。しかし、感情や業務遂行の行き違いに関する改善に十分に至れなかった件が1件あったことが課題である。メンター制度は、本人の課題に対してマッチングしたが、丁寧な対応や気軽に相談できる点で機能したと評価している。</p>	<p>○各種ハラスメントの理解と、自身の言動、行動を振り返るセルフチェックを行う。人権に関わる言動、行動は見逃さず、タイミングを逸せず管理職から指導緒を行う。</p> <p>○感情のコントロールを十分に行い、対話を大切に、風通しの良い職場にできるよう人間関係を維持する。若手教員に学校の業務を根柢を踏まえ OJT として継承していく。</p>
<p>【目標31】 サービス事故防止研修を実施し、個人情報保護等をはじめ、サービス事故未然防止の校内体制を構築、維持する</p>	<p>方策54 年3回の悉皆校内研修以外にも、企画調整会議、職員会議のレジュメには、具体的な事柄や各時期に注意すべき内容を掲載し、意識啓発、事故未然防止を継続的に実施した。管理職の日常の観察、声掛けを大切に徹底を図った。</p>	<p>○サービス事故は未然防止の体制構築が重要であるため、個人情報の扱いの流れ、管理方法、ダブルチェックを徹底する。</p>
<p>【目標32】 学校運営連絡協議会の機能を活用し、保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に積極的に反映させてより良い学校経営を目指す。</p>	<p>方策55 学校評価アンケートの回収率は教員、生徒に関してはほぼ全員回収できた。保護者の回収率がまだ低く、課題である。また、地域の方の質問項目に工夫が必要である。地域以外はデータにて実施した。学習面でやや下がっている項目があり、改善が必要である。</p>	<p>○学校評価アンケートの保護者回収率の上昇の策の検討。</p> <p>○学習面の評価、部活動加入率の減少が課題であり、学習は教科会や学年での検討、部活動は生徒保健部より具体的な取組策を講じる。</p>
<p>【目標 33】 経営企画室職員が、経営参画の意識を持ち各担当業務を経営企画室長の監督・指導のもと、計画的・効果的に遂行する。</p>	<p>方策56★ 学習活動に係る物品等で計画に反映できなかったものは、前倒しで購入、補正で予算配分し、予算編成・執行を行ったため、多少充実することができた。</p> <p>方策57 施設設備に関しては工事が多く入ったが、経営企画室が安全管理を施工業者と十分に打ち合わせ、教員に周知した結果、安全に実施できた。備品は、今までなかったグランドピアノの設置。部隊幕の修繕など、環境整備に努めた。</p>	<p>★各分掌、学年、部活動等物品の管理状況を確認する体制をつくり、生徒の学習において安全が保障させるための予算、より質の高い授業を担保する予算編成を検討する。</p> <p>○教室等カーテンの劣化などが進んでいる箇所の情報を適時副校長や経営企画室長に報告し、環境の改善を図る。</p>
<p>【目標 34】 授業料・学校徴収金について収納及び執行管理を行う。公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。</p>	<p>方策58 「学校徴収金基本計画」に基づき、未納者に対して迅速な督促を段階を踏んで行った結果、未納ゼロとなった。就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度については、HP や保護者コミュニケーションシステムで周知を適時行えた。</p>	<p>○本項目については十分検討がされて実施が定着している。教員の意見を傾聴しながら連携し、引き続き業務を良い形で継続する。</p>

IV数値目標

令和7年度 数値目標	令和7年度結果
1 学習指導 ①教科会の実施 ②相互授業見学年間3回以上 ③教科による模試等分析 ④家庭学習・自主学習時間1日1時間以上 ⑤授業でのICTの活用 ⑥英検準会場実施 ⑦英検2級・準2級プラス・準2級合格者数 ⑧英検1級・準1級合格者数 ⑨月2冊以上本を読む生徒 ⑩国際交流等の取組 ⑪授業満足度 ⑫「総合的な探究の時間」は、「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」 ⑬「自分の将来を考えるようになった」	①10回 ②30%(14人) ③6回(定期考査含む) ④46% ⑤70% ⑥2回(全員受験1回) ⑦英検2級・準2級合格者81人 ⑧英検1・準1級合格者7人 ⑨13人 ⑩4回 ⑪91% ⑫85% ⑬90%
2 生活指導 ①遅刻者数 クラス月平均人数 ②「学校の規則を守っている」 ③「時間の管理ができています」 ④「挨拶ができています」 ⑤「情報モラルを理解している」	①1.9人(3学年平均) ②90% ③89% ④84% ⑤97%
3 特別活動・部活動 ①「部活動加入率」 ②部活動による地域貢献 ③「学校行事を通して、精神的に成長したり、協調性や団結力が育まれている」 ④「自発的・自治的な活動が展開されている」 ⑤体罰ゼロ	①72% ②79% ③94% ④93% ⑤ゼロ
4 健康づくり ①生徒支援委員会開催 ②特別支援に係る教員研修 ③命の安全教育や人権尊重教育の実施 ④特別支援エリアネットワークとの連携 ⑤「生徒の悩みに適切に対応している」 ⑥「いじめをなくすために積極的に取り組んでいる」	①10回 ②1回 ③3回 ④1回 ⑤85% ⑥83%
5 進路指導 ①1年二者面談 ②2年・3年二者面談・三者面談 ③第3学年第一希望宣言の実現率 ④「進路関係の資料や進路講話などは充実している」 ⑤「進路指導は1学年から計画的に行われている」 ⑥業者による全体模試分析会 ⑦3年ケース会議 ⑧日東駒専現役合格者数 ⑨GMARCH現役合格者数	①二者面談2回 ②二者面談2回三者面談1回 ③50% ④90% ⑤90% ⑥2回 ⑦1回 ⑧26人 ⑨8人
6 募集・広報活動 ①ホームページの更新 ②学力検査応募倍率 ③学校見学会・説明会中学生参加者 ④中学校への出前授業等の実施	①192回 ②1.08倍 ③3301人 ④8回
7 地域交流等 ①「地域との連携に協力的」	①79%
8 学校運営・組織体制 ①服務事故ゼロ ②進路変更・中退者数 ③給与等支給明細電子化 ④センター執行率 ⑤学校徴収金未納者	①1回 ②9人(転学7、退学2) ③84% ④58.5% ⑤0人

